本文

官報

昭和十一年五月二十九日
第二千八百二十號　金曜日

目次抄錄

●法律　思想犯保護觀察法　四
重要肥料業統制法　八四五
競馬法中改正　八四五
製鹽業整備法中改正　八四六
自動車製造事業法　八四七
航空法中改正　八五二

●勅令　農林部內臨時農業調整官設置制　八五五
中改正　八五五
旅團工兵大隊官制中改正　八五八
關東師範學校官制　八五八
關東師範學校女子部官制　八五八
旅團司令部等公債保管官制中改正　八五九
高等官官等俸給令中改正　八五九
在支陸軍部隊臨時編制令　八五九
警察講習所教官職制　八五九
國語調査委員會官制中改正　八六〇
項ノ規定ニ依リ外國ヲ指定スル件中改正　八六〇
●勅令　外國電報規則中改正　八六五
●告示　陸軍士官學校豫科生徒等募集ノ件　八六六
●閣令　大正十二年法律第五十二號ニ依ル試驗委員　八六七

法律

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル思想犯保護觀察法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

内閣總理大臣　廣田　弘毅
司法大臣　林　頼三郎

法律第二十九號

思想犯保護觀察法

第一條　治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合又ハ訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セザル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ本人ヲ保護觀察ニ付スルコトヲ得本人刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレタル場合亦同ジ

第二條　保護觀察ニ於テハ本人ヲ保護シテ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止スル爲其ノ思想及行動ヲ觀察スルモノトス

第三條　保護觀察ハ本人ヲ保護觀察所ノ保護司ノ觀察ニ付シ又ハ保護者ニ引渡シ若ハ保護團體、寺院、教會、病院其ノ他適當ナル者ニ委託シテ之ヲ爲ス

第四條　保護觀察ニ付セラレタル者ニ對シテハ居住、交友又ハ通信ノ制限其ノ他適當ナル條件ノ遵守ヲ命ズルコトヲ得

第五條　保護觀察ノ期間ハ二年トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ保護觀察審査會ノ決議ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第六條　第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ニ對シ保護觀察審査會ノ決議前假ニ第三條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條　第三條又ハ第四條ノ處分ハ其ノ執行中何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得前條ノ處分ニ付亦同ジ

第八條　保護觀察所ハ必要アルトキハ保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第九條　保護觀察所及保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第十條　本人ヲ保護團體、寺院、教會、病院又ハ適當ナル者ニ委託シタルトキハ委託ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リテ生ジタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第十一條　前條ノ費用ハ保護觀察所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ其ノ全部又ハ一部ヲ徴收スルコトヲ得此ノ命令ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ命令ニ不服アル者ハ命令ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ出訴ハ執行停止ノ效力ヲ有セズ

第十二條　少年ニシテ治安維持法ノ罪ヲ犯シタル者ニハ少年法ノ保護處分ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十三條　本法ハ陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ揭ゲル者ニハ之ヲ適用セズ

第十四條　保護觀察所及保護觀察審査會ノ組織及權限竝ニ保護觀察ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ本法施行前ニ第一條ニ定ムル事由ノ生ジタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル重要肥料業統制法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

内閣總理大臣　廣田　弘毅
大藏大臣　馬場　鍈一
農林大臣　島田　俊雄
商工大臣　小川鄕太郎

法律第三十號

重要肥料業統制法

第一條　本法ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖リ肥料製造業及農業經營ノ改善發達ヲ期スルコトヲ目的トス

第二條　本法ノ適用ヲ受クル肥料ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ於テ肥料製造業ト稱スルハ命令ノ定ムル所ニ依リ肥料ヲ製造スル事業ヲ謂フ

第三條　肥料製造業者ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖リ肥料製造業ノ改善發達ヲ期スル爲政府ノ認可ヲ受ケ肥料ノ種類別ニ肥料製造業組合ヲ設立スルコトヲ得

第四條　肥料製造業者肥料製造業組合ヲ設立セザル場合ニ於テ政府必要アリト認ムルトキハ肥料製造業者ニ對シ肥料製造業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者命令ノ定ムル所ニ依リ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五條　肥料製造業組合ハ法人トス

肥料製造業組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條　肥料製造業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　肥料ノ製造總數量及各組合員ニ對スル其ノ割當ノ決定、肥料ノ販賣價格ノ

官報　第二八二〇號　昭和十一年五月二十九日　金曜日

昭和十一年五月二十五日　第三種郵便物認可

決定其ノ他肥料ノ生産又ハ販賣ニ關スル決定

二　組合員ノ委託ニ依ル肥料ノ販賣但シ前號ノ決定ヲ實行スル爲必要アル場合ニ限ル

三　組合員ノ肥料製造業ニ必要ナル物ノ供給

四　其ノ他組合ノ目的達成上必要ナル事業

第七條　肥料製造業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

肥料製造業組合ノ設立アリタルトキハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

肥料製造業組合ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第八條　肥料製造業組合ハ肥料ノ種類毎ニ一箇トス

第九條　肥料製造業組合ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第十條　肥料製造業組合ノ設立アリタルトキハ其ノ種類ノ肥料製造業者ハ其ノ組合ノ組合員トス

肥料製造業組合ハ政府ノ認可ヲ受ケ本法施行地域外ニ於テ肥料製造業ヲ營ム者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第十一條　肥料製造業組合第六條第一號ノ決定ヲ爲シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施前豫メ之ヲ政府ニ屆出デ其ノ承認ヲ受クベシ

肥料製造業組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依ル屆出前ニ於テハ其ノ決定ニ基キ肥料ノ生産又ハ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ屆出後命令ノ定ムル期間內亦同ジ

政府肥料ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ第一項ノ決定ノ全部又ハ一部ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十二條　肥料製造業者又ハ肥料製造業組合ハ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ肥料ノ生産、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ニ關シ統制協定ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條　肥料製造業組合肥料ノ製造數量及各組合員ニ對スル其ノ割當ノ決定又ハ肥料ノ販賣價格ノ決定ヲ爲サザル場合ニ於テ政府公益上必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ肥料製造業組合ノ組合員ニ對シ肥料ノ生産又ハ販賣ニ關スル組合ノ決定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條　政府ハ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ニ對シ其ノ業務ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ肥料製造業組合又ハ其ノ組合員ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條　肥料製造業組合ノ決議又ハ組合ノ役員ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　決議ノ取消

二　役員ノ解任

三　組合ノ事業ノ停止

四　組合ノ解散

第十七條　本法ニ規定スルモノヲ除クノ外肥料製造業組合ノ設立、登記、組織、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第十九條　第十一條第三項ノ規定ニ依ル處分、前條ノ規定ニ依ル制限其ノ他本法施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ゼシムル爲重要肥料業委員會ヲ置ク

重要肥料業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十二條ノ規定ニ違反シ政府ノ許可ヲ受ケズシテ統制協定ヲ爲シタル者

三　第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四　第十八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ肥料ノ輸出又ハ輸入ヲ爲シタル者

前項第四號ノ場合ニ於テハ其ノ肥料ハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第二十一條　第十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　正當ノ事由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ前項ニ同ジ

第二十四條　肥料製造業組合、肥料製造業組合ノ組合員、肥料製造業者其ノ他肥料ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條　肥料製造業組合第十一條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲サザルトキハ組合ノ役員ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十七條　肥料製造業組合本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキハ組合ノ役員又ハ清算人ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號中「又ハ輸出組合聯合會ヲ」ヲ「、輸出組合聯合會又ハ肥料製造業組合ニ、又ハ輸出組合法ヲ」ニ、「、輸出組合法又ハ重要肥料業統制法」ニ改ム

（參照）

明治二十九年三月二十七日公布法律第二十七號登錄稅法抄錄

第十九條　左ニ揭グルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號第九號第十二號及第十四號乃至第十六條ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

七　產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、農事實行組合、農業倉庫業組合、漁業組合、漁業組合聯合會、工業組合、工業組合聯合會、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、輸出組合又ハ輸出組合聯合會ニ付產業組合法、農業倉庫法、漁業法、工業組合法、商業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル競馬法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
司法大臣　林　頼三郎
大藏大臣　馬場　鍈一
內務大臣　潮　惠之輔
農林大臣　島田　俊雄

競馬法中改正法律

第一條　本法ニ依ル競馬ハ日本競馬會ニ限リ之ヲ行フコトヲ得

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

競馬ノ開催ハ競馬場毎ニ年二回ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ年三回開催スルコトヲ得

第四條第一項中「第一條ノ法人」ヲ「日本競馬會」ニ改ム

第五條第二項中「當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人」ヲ「日本競馬會」ニ改ム

第六條第一項中「第一條ノ法人」ヲ「日本競馬會」ニ改ム

第八條第二項中「百分ノ六以內」ヲ「百分ノ八以內」ニ、同條第三項中「第一項」ヲ「前二項」ニ、同條第四項中「第一項」ヲ「第一項及第二項」ニ、「三分ノ二」ヲ「四分ノ三」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本競馬會ノ保有スル資金ガ其ノ保有スベキ準備資金ノ最高額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ政府ニ納付セシムルコトヲ得

第九條　日本競馬會ハ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ニ對シ其ノ定ムル歩合ノ金額ヲ賣得歩合金トシテ收得スルコトヲ得但シ前條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ納付スベキ金額ト賣得歩合金額トノ合計ハ賣得金ノ額ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條　日本競馬會ハ法人トシ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルヲ以テ目的トス

日本競馬會ハ前項ノ目的ヲ達スル爲本法ニ依リ競馬ヲ行フノ外業務規則ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事業ヲ行フコトヲ得

日本競馬會ハ全國ヲ通ジ一箇トシ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

第十一條　主務大臣ハ設立委員ヲ命ジ日本競馬會ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十二條　設立委員ハ業務規則ヲ作リ主務大臣ニ日本競馬會設立ノ認可ヲ申請スベシ

日本競馬會ハ前項ノ認可アリタル時成立ス

第十三條　業務規則ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　競馬場
五　役員ニ關スル規定
六　事業及其ノ執行ニ關スル規定
七　資產及會計ニ關スル規定
八　業務規則ノ變更ニ關スル規定

業務規則ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十四條　日本競馬會ハ其ノ成立ノ日ヨリ三週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　成立ノ年月日
五　資產ノ總額
六　理事長、副理事長、理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ揭グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ二週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス但シ前項第五號ニ揭グル事項ニ付テハ每會計年度末日ノ現在ニ依リ會計年度終了後一月以內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スベシ

第十五條　民法第四十四條、第四十五條第二項第三項、第四十七條、第四十八條、第五十條、第五十四條、第五十五條、第五十七條、第六十八條第一項及第七十條乃至第八十三條竝ニ非訟事件手續法第三十五條、第三十六條、第三十七條ノ二、第百十七條、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十二條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ日本競馬會ニ之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項、第四十八條第一項及第七十七條中一週間トアルハ之ヲ二週間トス

第十六條　日本競馬會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

日本競馬會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セズ

第十七條　日本競馬會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事長　一人
副理事長　一人
理事　若干人
監事　若干人
評議員　二十五人以內

第十八條　理事長ハ日本競馬會ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

本文
2820
号

副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ業務規則ノ定ムル所ニ從ヒ日本競馬會ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ日本競馬會ノ業務ヲ監査ス

第十九條　理事長及副理事長ハ主務大臣之ヲ命ズ

理事及監事ハ業務規則ノ定ムル所ニ依リ評議員ニ於テ其ノ候補者ヲ選擧シ主務大臣之ヲ命ズ

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五年、監事ノ任期ハ三年トス

第二十條　評議員ハ主務大臣之ヲ命ズ

評議員ハ名譽職トシ前條第二項ノ規定ニ依ル選擧ヲ爲スノ外業務ノ執行ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮問ニ應ズルモノトス

評議員ノ任期ハ三年トス

第二十一條　日本競馬會競馬ヲ開催セントスルトキハ當該競馬ニ關スル事務ヲ執行セシムル爲命令ノ定ムル所ニ依リ開催執務委員ヲ置クコトヲ要ス

第二十二條　日本競馬會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ資金ヲ管理スベシ

第二十三條　主務大臣ハ日本競馬會ノ業務ヲ監督ス

第二十四條　日本競馬會ハ左ニ揭グル事項ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一　借入金

二　債務ノ保證

三　不動産ノ取得又ハ處分

四　收支豫算

第二十五條　主務大臣ハ日本競馬會ニ對シ業務規則又ハ收支豫算ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　主務大臣ハ日本競馬會ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條　主務大臣ハ日本競馬會又ハ其ノ役員若ハ開催執務委員ノ行爲ガ法令、之ニ基キテ爲ス處分若ハ業務規則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　競馬ノ停止

二　勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

三　役員ノ解任

四　開催執務委員ノ職務執行ノ停止

第二十八條　日本競馬會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ノ報告書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第二十九條　主務大臣ハ特ニ日本競馬會監理官ヲ置キ日本競馬會ノ業務ヲ監視セシム

第三十條　日本競馬會監理官ハ何時ニテモ日本競馬會ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

日本競馬會監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本競馬會ニ命ジテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本競馬會監理官ハ日本競馬會ノ諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ開陳スルコトヲ得

但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ズ

第三十一條　日本競馬會又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第三十二條　主務大臣ハ本法ニ依ル競馬ニ關與スル調教師又ハ騎手ノ取締ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一　日本競馬會ニ非ズシテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二　第二十七條第二號ノ停止又ハ制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

三　本法ニ依ル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四　第五條第二項ニ揭グル者ニシテ前號ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタルモノ

第三十四條　開催執務委員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

二　第五條ノ規定ニ違反シタル者

三　第五條第二項ニ揭グル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

四　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者

五　第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非ザル券面金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者

六　第三十三條第一號乃至第三號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ購買シタル者

二　第五條第一項ニ揭グル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ

三　勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

四　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

第三十七條　日本競馬會ノ役員又ハ開催執務委員ガ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十八條　前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十九條　日本競馬會ノ理事長、副理事長、理事、監事若ハ開催執務委員又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ千圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ於テ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ受クベキ場合ニ其ノ許可又ハ認可ヲ受ケザルトキ

二　第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第二十五條、第二十六條又ハ第二十七條第四號ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ違反シタルトキ

四　本法ニ基キテ爲ス登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

五　民法第八十二條第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ檢査ヲ妨ゲタルトキ

六　第二十八條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ官廳ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

七　民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八　民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第四十條　第三十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條　從前ノ第一條ノ法人ハ本法施行後ト雖モ日本競馬會成立ノ日ヨリ一年以內ハ競馬ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ命令ノ定ムル所ニ依リ勝馬投票券賣得金ノ額ノ百分ノ八以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スルモノトス

第四十四條　本法ニ依リ日本競馬會ノ競馬ヲ開催スル競馬場ノ數ハ當分ノ內十一以內トス

第四十五條　從前ノ第一條ノ法人及社團法人帝國競馬協會ハ日本競馬會成立ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキ解散ス

第四十六條　從前ノ第一條ノ法人及社團法人帝國競馬協會ノ總會ノ決議ニ依ル解散ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四十七條　從前ノ第一條ノ法人及社團法人帝國競馬協會解散シタル場合ニ於テハ其ノ權利義務ハ日本競馬會之ヲ承繼ス

前項ノ場合ニ於ケル解散ノ登記ハ解散シタル法人ノ理事ノ申請ニ依リ之ヲ爲ス

第四十八條　前條第一項ノ場合ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ムル法人ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ權利義務ノ一部ヲ保留セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ其ノ權利義務ノ一部ヲ保留シタル法人ハ其ノ權利義務ニ付民法ノ規定ニ依リ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第四十九條　日本競馬會第四十七條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登錄稅ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三ニス但シ登錄稅法ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

北海道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ日本競馬會ニ對シ第四十七條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第五十條　日本競馬會第四十七條ノ規定ニ依リ從前ノ第一條ノ法人又ハ社團法人帝國競馬協會ノ權利義務ヲ承繼シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ且從前ノ第一條ノ法人又ハ社團法人帝國競馬協會ノ債權者ニシテ知レタルモノニ對シ各別ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

日本競馬會ノ承繼シタル債務中辨濟期ノ至ラザルモノアルトキハ日本競馬會ハ其ノ債權者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第五十一條　日本競馬會設立當時ノ理事及評議員ノ任期ニ付テハ第十九條第三項及第二十條第三項ノ規定ニ拘ラズ各五年以內又ハ三年以內ニ於テ業務規則ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

〔參照〕

大正十二年四月十法律第四十七號競馬法抄錄

第一條　馬ノ改良增殖及馬事思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第三十四條ノ法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ本法ニ依ル勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得

第二條第一項

競馬ノ開催ハ年二回ヲ超ユルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ年三回開催スルコトヲ得

第四條第一項

第一條ノ法人ハ、入場者ニ對シ參圓金額五圓以上二十圓以下ノ勝馬投票券ヲ發賣シ以テ發賣スルコトヲ得

第五條　學生生徒又ハ未成年者ニ對シ勝馬投票券ヲ發賣スルコトヲ得ス

當該競馬ヲ開催スル第一條ノ法人ノ役員又ハ當該競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手、馬主其ノ他競馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シ亦前項ニ同シ

第六條第一項

第一條ノ法人ハ勝馬投票券ノ申告ニ從ヒ命令ノ定ムル所ニ依リ當該競走ニ付テノ勝馬投票券ノ賣得金ノ額ヲ超エサル範圍內ニ於テ拂戻金ヲ交付スルモノトス但シ其ノ金額ハ勝馬投票券ノ參圓金額ノ十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

許可 2820 昭和十一年五月二十九日 官報

二　第五條ノ規定ニ違反シタル者
三　第七條第二項ニ揭グル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
四　第八條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者
五　第七條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルニ非サル拂戻金額ノ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
六　前條各號ノ一ニ規定スル行爲ノ相手方ト爲リタル者

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ勝馬投票券ヲ發賣シタル者
二　第五條第一項ニ揭グル者ニシテ勝馬投票券ヲ購買シタルモノ
三　勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者
四　第六條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル拂戻金ノ交付ヲ受ケタル者

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル製鐵業奬勵法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
大藏大臣　馬場　鍈一
內務大臣　潮　惠之輔
商工大臣　小川鄕太郎

法律第三十二號

製鐵業奬勵法中左ノ通改正ス

第二條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ製鐵事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ但シ所得稅法第十九條又ハ營業收益稅法第八條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條中「營業稅、營業收益稅及所得稅」ヲ「所得稅及營業收益稅」ニ改ム

第七條中「本法ニ依リ營業稅、營業收益稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル」ヲ「本法ニ依リ（第二條第二項但書ノ場合ヲ含ム）所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニハ第二條第三項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル所得稅及營業收益稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ又ハ其ノ免除セラレタル事業ニ屬スル」ニ改ム

附則第三項但書中「營業稅及」ヲ削リ第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二條第三項及第七條ノ規定ハ第三項ノ製鐵事業ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條第三項及第七條ノ改正規定ハ法人ニ付テハ本法施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

大正九年法律第十二號第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二　前條ノ規定ニ該當スル製造業ガ製鐵業奬勵法ニ定ムル能力ヲ有スル設備ヲ以テ製鐵事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第九條　自動車製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ發用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第十條　自動車製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ發用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當トシ爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メクルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條　自動車又ハ自動車部分品ノ輸入ガ自動車製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ自動車又ハ自動車部分品ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第十二條　自動車又ハ自動車部分品ノ輸入ニ因リ其ノ市價ノ低落ヲ來シ自動車製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間ヲ定メ自動車又ハ自動車部分品ニ對シ關稅定率法別表輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入稅ヲ課スルコトヲ得

第十三條　自動車製造會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十四條　自動車製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

自動車製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十五條　政府ハ自動車製造會社ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ自動車製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ自動車製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ自動車部分品ノ製造會社ニ對シ自動車若ハ自動車部分品ノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ自動車若ハ自動車部分品ノ需要供給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ自動車製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　政府軍事上必要アリト認ムルトキハ自動車製造會社ニ對シ軍用自動車又ハ其ノ部分品ノ製造、自動車ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　政府第三條ノ許可、第十一條ノ制限又ハ第十六條ノ命令ヲ爲サントスルトキハ自動車製造事業委員會ニ諮リ經ベシ

自動車製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　自動車製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ノ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ自動車製造事業ヲ營ミタル者

二　第十一條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ自動車又ハ自動車部分品ノ輸入ヲ爲シタル者

三　附則第四項ニ揭グル者ニシテ同項ノ規定ニ依ル範圍ヲ超エテ自動車製造事業ヲ營ミタルモノ

第二十一條　自動車製造會社第十六條又ハ第十七條ノ命令ニ違反シタルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　自動車製造會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ取締役又ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル自動車製造事業法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
海軍大臣　永野　修身
陸軍大臣　伯爵　寺內　壽一
大藏大臣　馬場　鍈一
內務大臣　潮　惠之輔
商工大臣　小川鄕太郎

法律第三十三號

自動車製造事業法

第一條　本法ハ國防ノ整備及產業ノ發達ヲ期スル爲帝國ニ於ケル自動車製造事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　本法ニ於テ自動車製造事業ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル自動車又ハ自動車部分品ノ組立又ハ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第三條　自動車製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ組立又ハ製造ヲ爲ス自動車又ハ自動車部分品ノ數量ガ命令ヲ以テ定ムル數量ニ達セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ自動車又ハ自動車部分品ノ需要供給ヲ參酌シ自動車製造事業確立上支障ナシト認メクル場合ニ非ザレバ前項ノ許可ヲ爲スコトヲ得ズ

2820
号外

一　第十三條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタルトキ
二　第十三條第二項ノ命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ
三　第十四條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事項ヲ許可ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
四　第十五條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者
二　第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十四條　自動車製造會社其ノ他ノ自動車ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ自動車製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間內ニ第三條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

昭和十年八月九日以前ニ於テ自動車製造事業ヲ開始シタル者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ事業ヲ營ムモノハ前二項ノ期間經過後ト雖モ第三條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十年八月九日以前ニ於テ營メル事業ノ範圍內ニ於テ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第十五條第一項第三項及第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ自動車製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス

本法施行ノ日ヨリ一月以內ニ第三條ノ許可ヲ申請シタル者自動車製造事業ノ爲必要ナル器具、機械又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ三月間命令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除

前項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受ケタル者第三條ノ許可ヲ受クルニ至ラザルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス

第六項ノ規定ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ爲ス場合ニ於テハ輸入ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

勅令

日本法律第三十四號

航空法中左ノ通改正ス

第一條　本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル飛行機、航空艇、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ

本法ニ於テ航空ニハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸ニハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至第四章ニ規定スル事項ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十七條中「技倆證明書及」ヲ削ル

第二十三條ノ二　行政官廳ハ航空ノ安全保持ノ爲公共ノ用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方千「メートル」ノ區域內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ特別地域內ニ於テ工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ設置、定繫又ハ植栽セムトスル者ハ該物件カ其ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ヲ基準トスル水平面上左ノ各號ノ高サヲ超ユル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ「メートル」ヲ超エサル農作物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域內ニ在リテハ物件ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ト其ノ地點トノ水平距離ノ三十分ノ一ノ高サ

二　前號ノ區域ノ外方ノ特別地域內ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離ニ在ル前號ノ區域ノ外方境界地點トノ水平距離ノ二十分ノ一ニ十七「メートル」ヲ加ヘタル高サ

第二十三條ノ三　行政官廳ハ前條ノ規定ニ違反シテ設置、定繫又ハ植栽シタル工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ニ付其ノ所有者又ハ之ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ其ノ高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條第一項左ノ如ク改ム

第二十三條ノ三第二項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ基ク措置又ハ前條ノ規定ニ依ル立入、除去若ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ第二十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定アリタルカ爲既ニ著手シタル工作物其ノ他ノ設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生シタル損害ニ付亦同シ

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
遞信大臣　賴母木桂吉

法律第三十四號

航空法中左ノ通改正ス

第一條　本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル飛行機、航空艇、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ

本法ニ於テ航空ニハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸ニハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至第四章ニ規定スル事項ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十七條中「技倆證明書及」ヲ削ル

第二十三條ノ二　行政官廳ハ航空ノ安全保持ノ爲公共ノ用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方千「メートル」ノ區域內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ特別地域內ニ於テ工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ設置、定繫又ハ植栽セムトスル者ハ該物件カ其ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ヲ基準トスル水平面上左ノ各號ノ高サヲ超ユル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ「メートル」ヲ超エサル農作物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域內ニ在リテハ物件ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ト其ノ地點トノ水平距離ノ三十分ノ一ノ高サ

二　前號ノ區域ノ外方ノ特別地域內ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離ニ在ル前號ノ區域ノ外方境界地點トノ水平距離ノ二十分ノ一ニ十七「メートル」ヲ加ヘタル高サ

第二十三條ノ三　行政官廳ハ前條ノ規定ニ違反シテ設置、定繫又ハ植栽シタル工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ニ付其ノ所有者又ハ之ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條第一項左ノ如ク改ム

第二十三條ノ三第二項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ基ク措置又ハ前條ノ規定ニ依ル立入、除去若ハ使用ニ因リ生シタル損害ニ付テハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ第二十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定アリタルカ爲既ニ著手シタル工作物其ノ他ノ設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生シタル損害ニ付亦同シ

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
遞信大臣　賴母木桂吉

法律第三十四號

航空法中左ノ通改正ス

第一條　本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル飛行機、航空艇、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ

本法ニ於テ航空ニハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸ニハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至第四章ニ規定スル事項ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第十七條中「技倆證明書及」ヲ削ル

第二十三條ノ二　行政官廳ハ航空ノ安全保持ノ爲公共ノ用ニ供スル飛行場又ハ公示セラレタル飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方千「メートル」ノ區域內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ特別地域內ニ於テ工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ設置、定繫又ハ植栽セムトスル者ハ該物件カ其ノ存スル地點ヨリ最短距離ニ在ル飛行場ノ境界地點ト其ノ地點トノ水平距離ノ三十分ノ一ノ高サ

二　前號ノ區域ノ外方ノ特別地域內ニ在リテハ物件ノ存スル地點ト其ノ地點ヨリ最短距離ニ在ル前號ノ區域ノ外方境界地點トノ水平距離ノ二十分ノ一ニ十七「メートル」ヲ加ヘタル高サ

第二十三條ノ三　行政官廳ハ前條ノ規定ニ違反シテ設置、定繫又ハ植栽シタル工作物、船舶、竹木其ノ他ノ物件ニ付其ノ所有者又ハ之ニ代リ其ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニ對シ期限ヲ定メ前條第二項ニ規定スル高サヲ超ユル部分ノ除去其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條第一項左ノ如ク改ム

第二十三條ノ三第二項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ基ク措置又ハ前條ノ規定ニ依ル立入、除去若ハ使用ニ因リ生シタル損害ニ付テハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ第二十三條ノ二第一項ノ規定ニ依ル特別地域ノ指定アリタルカ爲既ニ著手シタル工作物其ノ他ノ設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生シタル損害ニ付亦同シ

勅令

朕稅務署官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
大藏大臣　馬場　鍈一

勅令第七十號

稅務署官制中左ノ通改正ス

別表大阪稅務監督局ノ部中玉造稅務署ノ項「東成區　旭區　住吉區　西成區」ヲ「東成區　旭區」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

兵庫	濱區　兵庫區　林田區　須磨區　武庫郡ノ內山田村

附　則

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕農林部內臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
農林大臣　島田　俊雄

勅令第七十一號

農林部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條第一號中「屬」ヲ「技手」ニ改メ同條第十九人」ヲ「技手」ニ改メ同條第十七人」ヲ「技手」ニ改メ同條第四號ヲ削ル

第四條第四號中「技師　專任二人」ヲ「技師　專任四人」ニ、「屬　技手」ヲ「屬　技手」ニ改メ同條第二號中「技手　專任二人」ヲ「技手　專任五人」ニ、同條第十八號ヲ左ノ如ク改ム

十八　船溜船揚場設備ノ奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任二人
屬	專任一人
技手	

同表同稅務監督局ノ部中神戶稅務署ノ項「神戶市　武庫郡ノ內　山田村」ヲ「灘區　葺合區　神戶區　湊東區」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

兵庫	濱區　兵庫區　林田區　須磨區　武庫郡ノ內山田村

附　則

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕農林部內臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅
農林大臣　島田　俊雄

勅令第七十一號

農林部內臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第三條第一號中「屬　技手」ヲ「技師　專任十九人　技手」ニ改メ同條第二號中「屬　技手」ヲ「技師　專任十七人　技手」ニ改ム

第四條第四號中「技師　專任二人」ヲ「技師　專任四人」ニ、「屬　技手」ヲ「屬　技手」ニ改メ同條第二號中「技手　專任五人」ニ、同條第十八號ヲ左ノ如ク改ム

十八　船溜船揚場設備ノ奬勵ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任二人
屬	專任一人
技手	

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

二十　北太平洋北部漁場調査開發調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任一人
屬　技手	專任二人

第五條ノ二第四號ヲ左ノ如ク改メ同條中第六號ヲ削リ第七號ヲ第六號トシ第八號ヲ第七號トス

四　藏生產發展調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任二人
屬	專任三人
技手	專任四人

第九條第二號中「技手　專任九人」ヲ「技手　專任六人」ニ改ム

第十條中「屬　技手」專任二百九十四人」ヲ「屬　技手」專任三百十一人」ニ改ム

第十三條　獸疫調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

一　馬ノ傳染性貧血ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任一人
技手	專任三人

二　牛ノ傳染性流產ノ調査ニ關スル事務ニ從事スル者

技師	專任一人
技手	專任一人

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正十四年三月三十日勅令第三十九號農林部內臨時職員設置制左ノ一

第三條　農林省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

一　治水事業ニ關スル事務ニ從事スル者

（左記略ス）

法律

勅令

官報

2820

昭和十一年五月二十九日　金曜日

第四條　農林省ニ左ノ職員ヲ置キ水產局ニ關セシム

四　漁業修練業務ニ關スル事務ニ從事スル者

（左記略ス）

十八　災害救護ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任四人

技手一　專任五人

第五條ノ二　農林省ニ左ノ職員ヲ置キ蠶絲局ニ關セシム

四　蠶絲業共同組合設立認可ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

圖　專任一人

技手　專任二人

六　蠶絲業共同組合設立認可ニ關スル事務ニ從事スル者

技師　專任一人

圖　專任二人

技手　專任二人

第九條　蠶絲局ニ左ノ職員ヲ置ク

二　國有林野砂防試驗ニ關スル事務ニ從事スル者

（左記略ス）

第十三條　馬ノ傳染性貧血ノ調查ニ關スル事務ニ從事セシムル獸疫調查所ニ左ノ職員ヲ置ク

技師　專任一人

技手　專任三人

勅令第七十二號

旅順工科大學官制中左ノ通改正ス

第一條中「敎授　專任十四人」ヲ「敎授　專任十二人」ニ、「助敎授　專任十六人」ヲ「助敎授　專任十三人」ニ、「助手　專任二十一人」ヲ「助手　專任二十三人」ニ、「書記　專任六人」ヲ「書記　專任七人」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕旅順工科大學官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

勅令第七十三號

關東師範學校官制

第一條　關東師範學校ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

學校長　二人　奏任

敎諭　專任八人內三人　奏任

舍監　五人　判任

書記　專任二人　判任

第二條　學校長ハ滿洲國駐箚特命全權大使ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ兼ネテ關東州及南滿洲鐵道附屬地內ニ於ケル小學校敎育ニ屬スル學事ヲ視察ス

第三條　敎諭ハ生徒ノ敎育ヲ掌ル

第四條　舍監ハ敎諭ノ中ヨリ大使之ヲ補ス

學校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舍ノ事ヲ掌ル

第五條　書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ス

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東師範學校官制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

勅令第七十四號

關東高等女學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「敎諭　專任五十一人內十二人　三十九人」ヲ「敎諭　專任五十一人內十二人　三十八人　奏任　判任」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕關東高等女學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

勅令第七十五號

旅順高等公學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「敎諭　專任二十三人」ヲ「敎諭　專任二十四人」ニ改ム

第三條第二項中「小學校、」ヲ削ル

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和七年四月八日公布勅令第五十五號旅順高等公學校官制參照

朕旅順高等公學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

勅令第七十六號

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十四條中「關東遞信官署遞信技師」ノ次ニ「關東師範學校長」ヲ加フ

第十五條中「旅順工科大學事務官」ノ次ニ「關東師範學校敎諭」ヲ加フ

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕在支陸軍部隊臨時給與令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

陸軍大臣　伯爵　寺內　壽一

勅令第七十七號

在支陸軍部隊臨時給與令

第一條　支那ニ在ル陸軍部隊及軍人軍屬ノ給與ニ付テハ第二條ニ規定スルモノヲ除クノ外當分ノ內在滿陸軍部隊臨時給與令ヲ準用ス

軍人軍屬以外ノ者ニシテ支那ニ在ルモノノ給與ニ付テハ當分ノ內在滿陸軍部隊臨時給與令中軍人軍屬以外ノ者ノ給與ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條　將校同相當官及高等文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ六以內、准士官以下及判任文官同待遇者ニハ俸給ノ十分ノ九以內ノ在勤加俸ヲ給ス但シ在勤加俸ノ年額九百三十圓ニ滿タザル者ニハ年額九百三十圓迄ヲ給スルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那駐箚陸軍部隊給與令ハ之ヲ廢止ス

朕警察講習所敎官服制ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

內務大臣　潮　惠之輔

勅令第七十八號

警察講習所敎官服制

警察講習所ノ專任ノ敎授及助敎授ノ服制ニ付テハ警察官及消防官服制中最上席ノ敎授ニハ廳府縣警察部長、其ノ他ノ敎授ニハ警視、助敎授ニハ警部ニ關スル規定ヲ準用ス但シ上衣袖章ハ左ノ通トス

幅五粍ノ蛇腹組金線及幅三〇粍ノ黑色縞織線各一條ヲ表半面ニ纏ヒ其ノ下部ニ幅一五粍ノ黑色縞織線二條ヲ縱ニ附シ中間ニ徑一五粍ノ金色略日章ヲ最上席ノ敎授ニ在リテハ三箇、其ノ他ノ敎授ニ在リテハ二箇、助敎授ニ在リテハ一箇ヲ附ス但シ白布夏衣ニ在リテハ蛇腹組金線及黑色縞織線ニ代ヘ幅六粍ノ白色線一條ヲ纏ヒ其ノ下部ニ同一條ヲ縱ニ附シ略日章ハ銀色トス

夏衣

形狀最上席ノ敎授ニ付テハ圖ノ如シ其ノ他ノ敎授及助敎授ニ付テハ之ニ準ズ

御名　御璽

昭和十一年五月二十八日

內閣總理大臣　廣田　弘毅

內務大臣　潮　惠之輔

勅令第七十九號

大正十三年勅令第二百六十二號中左ノ通改正ス

同令ニ左ノ一號ヲ加フ

七　墨西哥國

附　則

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

朕大正十三年勅令第二百六十二號國籍法第二十條ノ二第一項ノ規定ニ依リ外國ヲ指定スルノ件中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

省令

◎遞信省令第十五號

外國電報規則中左ノ通改正ス

本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　賴母木桂吉

第七十一條中第二號ノ次ニ左ノ如ク加フ

三　東京上海間無線電信連絡ヲ經由シテ帝國電信系ト上海ニ於ケル中國電報局トノ間ニ發著スル電報

四　東京天津間無線電信連絡ヲ經由シテ帝國電信系ト天津ニ於ケル中國電報局トノ間ニ發著スル電報

第八十六條中「往信若ハ返信又ハ」ノ次ニ「上海、天津、」ヲ加フ

秘 2820 5

（參照）
昭和六年十月司法省令第十七號廳親
第七十八條ノ二ノ規定ニ依リ左ノ通
（左記略ス）

訓令

◎内務省訓令第八號

警察講習所教官服裝規則左ノ通定ム

昭和十一年五月二十九日

内務大臣　潮　恵之輔

警察講習所教官服裝規則

警察講習所ノ教官ノ服裝ニ關シテハ警察官及消防官服裝規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

告示

◎外務省告示第三十三號

明治四十年勅令第二十條ニ依リ外務省告示第十五號移民保護法第二十條ノ二ノ規定ニ依リ命ヲ以テ定ムヘキ移住地ノ追加ニ關シ本年五月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年五月二十九日

外務大臣　有田八郎

ニヂヤ國

◎内務省告示第三百十三號

都市計畫法第一條ノ規定ニ依リ新潟縣佐渡郡相川町ヲ指定ス

昭和十一年五月二十九日

内務大臣　潮　恵之輔

◎内務省告示第三百三十三號

左ノ區域ニ昭和十一年六月十八日ヨリ市街地建築物法ヲ適用シ其ノ區域ヲ同法施行令第三十二條及同法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ指定ス

昭和十一年五月二十九日

内務大臣　潮　恵之輔

福井縣敦賀郡敦賀町

◎内務省告示第三百三十四號

神宮當廳ニ左記土地ヲ編入セリ

昭和十一年五月二十九日

内務大臣　潮　恵之輔

所在地　面積

澤三吊隈度
吉七百六坪
四番二町大字
ノ一字

同上百六十番　二畝二歩

同上百八十九番　二反六畝二歩

同上百九十番　一反六畝二十歩

同上百九十五番　一反七畝五歩

同上百九十六番　二畝五歩

同上百九十七番　二畝二十七歩

同上百九十五番ノ一　二十二歩

同上百九十六番ノ一　五歩

同上百九十七番ノ一　二十九歩

同上百九十三番　五畝十七歩

同上百九十八番　二畝十七歩

◎遞信省告示第二十九號

昭和十一年四月八日ヨリ左ノ通改正セラルヘキ陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒ヲ召募ス其ノ詳細ニ關シテハ陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒募集規則ニ依ル

昭和十一年五月二十九日

陸軍大臣　伯爵　寺内壽一

一　採用豫定人員、志願者年齢、願書類差出期日、採用檢查期日

學校別	採用豫定人員	年齢	出願書類差出期日	採用檢査期日
生徒隊徒步砲兵科	十名	自大正十五年四月二日至昭和二年一月一日生ノ者	昭和十一年九月一日	一、身體檢查　昭和十一年十一月三日 二、學科試驗　同月十四日
幼年學校	三十名	自大正十五年四月二日至昭和二年一月一日生ノ者	昭和十一年九月一日	一、身體檢查　昭和十一年十一月三日 二、學科試驗　同月十四日

備考　示ス所ハ陸軍士官學校豫科生徒及陸軍幼年學校生徒ヲ志願スル者ノ年齢及願書類差出期日ハ本裝ニ

二　檢查場左ノ如シ

師管	身體檢查場	學科試驗場
第一師管	東京	東京
第二師管	仙臺	仙臺
第三師管	名古屋	名古屋
第四師管	大阪	大阪
第五師管	廣島	廣島
第六師管	熊本	鹿兒島
第七師管	旭川	旭川
第八師管	弘前	弘前
第九師管	金澤	金澤

◎遞信省告示第千百九十三號

昭和六年遞信省告示第千四百號中左記第一號ヲ削リ同第二號ヲ第一號トシテ第三號ノ次ニ左ノ通加ス

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

種別	設置ヲ許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ目的	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ相手方	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ呼出符號	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ電力	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ構造	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ高サ	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ架設箇所
三、機關設置場所	宮内大臣	無線電信法第二條ニ依ル無線電信ノ施設ニ關スル許可セラレタル目的	北海道廳ヲ除ク日本帝國ノ地域内ニ在ル無線電信又ハ無線電話ノ局	呼出符號ハ「ルビ」ヲ以テ定ムヘキ	二百瓦	垂直型	地上二十米	東京市麻布區飯倉町二丁目一番地

◎遞信省告示第千百九十三號

無線電信法第二條ニ依リ左記ノ施設無線電信又ハ無線電話ノ目的ニ關スル許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

一、施設者ノ氏名又ハ名稱及住所	二、施設ノ目的
宮内大臣　東京市麻布區飯倉町二丁目一番地	無線電信法第二條第五號ニ依リ無線電信ノ學術研究ノ用ニ供スル爲

◎遞信省告示第千百九十四號

昭和六年遞信省告示第千四百號ニ國際ヲ締結シ又ハ通信局部ノ廢止ニ伴ヒ左記ノ通改正セラルヘキ

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

（參照）
昭和六年遞信省告示第千四百號

◎文部省告示第二百三十八號

克山局部ニ領事官ノ設置セラルルニ伴ヒ在外指定學校トシテ昭和十一年五月十五日ヨリ克山日本尋常小學校ヲ加ヘ恩給法施行令第八條ニ依リ昭和十一年五月二十九日

外務大臣　有田八郎
文部大臣　平生釟三郎

◎司法省告示第十六號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
東京辯護士會	東京市麹町區四谷北伊賀町一番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十日

◎司法省告示第十七號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
甲府辯護士會	甲府市錦町二番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十一日

◎司法省告示第十八號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
松江辯護士會	松江市殿町六十八番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十日

◎文部省告示第二百三十七號

南滿洲鐵道株式會社ノ設立セル新京自彊學校ヲ昭和十一年五月一日ヨリ新京自彊學校ト改稱ス

昭和十一年五月二十九日

文部大臣　平生釟三郎
外務大臣　有田八郎

◎遞信省告示第千百九十三號

無線電信法第二條ニ依リ左記ノ施設無線電信又ハ無線電話ノ目的ニ關スル許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

種別	設置ヲ許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ目的	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ相手方	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ呼出符號	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ電力	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ構造	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ高サ	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ架設箇所
三、機關設置場所	宮内大臣	無線電信法第二條ニ依リ無線電信ノ施設ニ關スル許可セラレタル目的	北海道廳ヲ除ク日本帝國ノ地域内ニ在ル無線電信又ハ無線電話ノ局	呼出符號ハ「ルビ」ヲ以テ定ムヘキ	二百瓦	垂直型	地上二十米	東京市麻布區飯倉町二丁目一番地

◎遞信省告示第千百九十四號

昭和六年遞信省告示第千四百號中左記第一號ヲ削リ同第二號ヲ第一號トシテ第三號ノ次ニ左ノ通加ス

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

種別	設置ヲ許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ目的	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ相手方	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ呼出符號	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ電力	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ構造	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ高サ	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ架設箇所
三、機關設置場所	宮内大臣	無線電信法第二條ニ依リ無線電信ノ施設ニ關スル許可セラレタル目的	北海道廳ヲ除ク日本帝國ノ地域内ニ在ル無線電信又ハ無線電話ノ局	呼出符號ハ「ルビ」ヲ以テ定ムヘキ	二百瓦	垂直型	地上二十米	東京市麻布區飯倉町二丁目一番地

◎司法省告示第十號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
甲府辯護士會	甲府市錦町二番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十一日

◎司法省告示第十一號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
松江辯護士會	松江市殿町六十八番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十日

◎文部省告示第二百三十七號

南滿洲鐵道株式會社ノ設立セル新京自彊學校ヲ昭和十一年五月一日ヨリ新京自彊學校ト改稱ス

昭和十一年五月二十九日

文部大臣　平生釟三郎
外務大臣　有田八郎

第十師管	鯨路	松江	鯨路	岡山	松江	鳥取
第十一師管	薩摩	鴛淵寺	高知	松山	德島
第十二師管	久留米	小倉	熊岡	大村	鎭西
第十四師管	宇部	宮崎	水戸	松本	高崎
第十六師管	東部	京都	京都	津	奈良	福知山
仲	酋	京城	龍山	南	京城	平壤	大邱	羅南	咸興
亞	澳	亞北	亞南	亞北	亞南
關東州及滿洲國	旅順	新京	旅順	新京	奈良
支那	天津	天津

備考	一、時定ニ依リ身體檢查場ヘ之ヲ指定スルコトアルヘシ	二、身體檢查場ヘ受驗スヘキ學科試驗場ト同一師管ナルコトヲ要ス	三、本表ニ示ス所ニ依リ難キ場合ニ於テハ別ニ定ムルコトアルヘシ	四、身體檢查場及學科試驗場ヲ選定スルコトヲ得ル旨ハ身體檢查場ノ欄ニ之ヲ記ス

◎司法省告示第十六號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
東京辯護士會	東京市麹町區四谷北伊賀町一番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十一日

◎司法省告示第十七號

辯護士法附則第七項ニ依リ左記辯護士會ノ設立ヲ認可セリ

昭和十一年五月二十九日

司法大臣　林頴三郎

一、辯護士會ノ名稱及事務所ノ所在地

名稱	事務所ノ所在地
甲府辯護士會	甲府市錦町二番地

二、設立ノ年月日

昭和十一年五月二十一日

◎遞信省告示第千百九十二號

昭和六年遞信省告示第千四百號中左記第一號ヲ削リ同第二號ヲ第一號トシテ第三號ノ次ニ左ノ通加ス

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

使用局所　目附印形式

起人衆
委任狀中
内閣部
臨時四號
出張所
張所常置

昭和十一年六月三日

央中京東
11.6.3

使用抑留

寄託天
第三號部
臨時閣局
出張所
張所常置

昭和十一年六月三日

寺王木
11.6.3

（參照）
昭和六年遞信省告示第千四百號ニ國際ヲ締結シ又ハ通信局部ノ廢止ニ伴ヒ左ノ通改正セラルヘキ

◎遞信省告示第千百九十三號

無線電信法第二條ニ依リ左記ノ施設無線電信又ハ無線電話ノ目的ニ關スル許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

種別	設置ヲ許可セラレタル者ノ氏名又ハ名稱及住所	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ目的	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ相手方	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ呼出符號	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ電力	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ構造	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ高サ	設置ヲ許可セラレタル無線電信又ハ無線電話ノ空中線ノ架設箇所
三、機關設置場所	宮内大臣	無線電信法第二條ニ依リ無線電信ノ施設ニ關スル許可セラレタル目的	北海道廳ヲ除ク日本帝國ノ地域内ニ在ル無線電信又ハ無線電話ノ局	呼出符號ハ「ルビ」ヲ以テ定ムヘキ	二百瓦	垂直型	地上二十米	東京市麻布區飯倉町二丁目一番地

第2820号　本文

四呼出符號　J2ND
五、空中線電力　一〇「ワット」以下
六、使用電波ノ型式及周波數　A1及A3七一〇〇及一四二〇〇kc
七、通信執務時間　自午前二時至同四時、自午前六時至同八時、自午後二時至同五時、自午後四時至同六時、自午後十時至同十二時

◎遞信省告示第千百九十四號

無線電信法第二條ニ依リ左記私設無線電信無線電話施設ヲ許可セリ

昭和十一年五月二十九日　遞信大臣　頼母木桂吉

一、施設者名　田畑太市
二、施設ノ目的　無線電信法第二條第五號ニ依リ無線電信無線電話ノ學術研究及機器ニ關スル實驗ニ使用
三、機器裝置場所　福井縣坂井郡蘆原町田中第一號六五番地ノ二
四、呼出符號　J2CZ
五、空中線電力　一〇「ワット」以下
六、使用電波ノ型式及周波數　A1及A3七一〇〇及一四二〇〇kc
七、通信執務時間　自午前一時至同四時、自午前六時至同八時、自午後二時至同五時、自午後四時至同六時、自午後十時至同十二時

◎遞信省告示第千百九十五號

昭和十一年六月一日ヨリ左記郵便局分室ヲ移轉改稱ス

昭和十一年五月二十九日　遞信大臣　頼母木桂吉

現名稱　現在位置　改稱　移轉位置
博多郵便局太刀洗分室　福岡縣三井郡太刀洗村　博多郵便局飛行場分室　福岡縣甜屋

◎遞信省告示第千百九十六號

宮城縣立陸前大島燈竿ハ震ニ告示（昭和十一年五遞信省告示第四百八十七號參照）ノ通假燈點燈中ノ處昭和十一年五月二十三日ヨリ左記ノ通變更ノ上復舊セシ旨同縣ヨリ報告アリタリ

昭和十一年五月二十九日　遞信大臣　頼母木桂吉

一、名稱　陸前大島燈臺
一、構造　鐵造四角櫓形
一、其ノ他　從前ノ通

◎遞信省告示第千百九十七號

東京府ニ於テ小笠原島父島二見港丸山ニ左記ノ燈臺ヲ設置シ昭和十一年五月二十五日ヨリ點燈施設セシ旨同府ヨリ報告アリタリ

昭和十一年五月二十九日　遞信大臣　頼母木桂吉

一、位置　北緯一七度〇四分三六秒　東經一四二度一二分一八秒（水路部刊行海圖第四十九號）
一、塗色及構造　白色コンクリート造圓形
一、自基至燈火高　十米
一、自平均水面至燈火高　五十三米五
一、等級及燈質　無等アセチレンガス燈明暗白光明三秒暗三秒（紅光分弧）
一、明弧　七四度ヨリ一四五度マデ
一、燭光數　百六十
一、光達距離　晴天ノ夜十浬
一、記事　七四度ヨリ八三度ニ至ル九度間ハ暗礁根以南ノ危險區域ヲ又九二度ヨリ一四五度ニ至ル五三度間ハ口之瀨以北ノ危險區域ヲ紅光ヲ以テ明示ス　本燈臺ニハ看守員ヲ常置セズ　燈火消滅ノ時ハ之ガ復舊迄ニ多少ノ時間ヲ要ス

◎遞信省告示第千百九十八號

豫約新聞電話規則第一條ノ二ニ依リ短期豫約通話ノ取扱ヲ爲ス其ノ通話區域、豫約期間、申請書受付期間、申請書受付局及認可條件等左ノ如シ

昭和十一年五月二十九日　遞信大臣　頼母木桂吉

一、通話區域、豫約期間、申請書受付期間及申請書受付局

通話區域	豫約期間	申請書受付期間	申請書受付局
上斜里	自六月十日至六月二十五日	札幌遞信局	札幌
東京間			同
札幌間			同
函館間			同
小樽間			同
旭川間			同
東京間			同
女滿別間			同
札幌間			同
函館間			同
小樽間			同
旭川間			同
東京間			同
札幌間			同
函館間			同
小樽間			同
旭川間			同
東京間			同
札幌間			同
函館間			同
小樽間			同
中頓別間			同
小樽間			同
函館間			同
札幌間			同
旭川間			同
東京間			同
札幌間			同
函館間			同
小樽

場合ニ限リ二十五年未滿ナルモ妨ナキコト

二、建造セラルベキ船舶（以下代船ト稱ス）ハ總噸數四千噸以上且速力（節ニテ）ガ其ノ長サ（米ニテ）ノ平方根ノ一、三倍以上ノ鋼製貨物汽船ナルベキコト但シ速力ニ付テハ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラザルコト

三、解體船ノ總噸數ハ遞信大臣ノ認ムル場合ノ外代船ノ總噸數以上ナルベキコト

四、解體船ノ總噸數ガ代船ノ總噸數ヲ超ユルトキハ遞信大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ超ユル噸數ヲ他ノ代船ニ對スル解體噸數ニ充當スルヲ得ルコト

五、代船ハ內地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍ヲ定ムベキコト

六、代船ノ建造ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベキコト

（イ）仕樣書及圖面ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト

（ロ）船型及推進器ニ付水槽試驗ヲ受ケ其ノ選定ニ付遞信大臣ノ承認ヲ受クルコト但シ遞信大臣ニ於テ特ニ認ムル場合（此ノ限ニ在ラザルコト

（ハ）材料、機關及艤裝品ニ付テハ本邦製品ヲ使用スルコト但シ本邦ニ於テ製作困難ナル場合、急速ノ需要ニ應ジ難キ場合其ノ他ニムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

（ニ）遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依リ速力試驗ヲ執行スルコト

（ホ）船舶安全法ニ依ル製造檢査又ハ之ト同等程度ノ製造檢査ヲ受クルコト

七、解體船ハ代船竣工後解體ニ著手シ且命令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇年以內ニ解體スベキコト

八、助成金ハ別表ノ定ムル所ニ依リ支給スルコト

九、申請者ハ左ノ各號ノ書類（（イ）乃至（ハ）ハ各二通宛）ヲ具シ船舶改善協會ヲ經テ遞信大臣ニ申請スベキコト

（イ）代船件名書（第一號書式）

（ロ）解體船件名書（第二號書式）

（ハ）代船ノ船體及機關ノ製造計畫書

（ニ）解體船主代船船主間ニ於ケル解體船ノ解體ニ關スル契約書及其ノ寫

（ホ）第四項ニ依リ承認ヲ受ケタル噸數ヲ解體噸數ニ充當セントスルトキハ其ノ承認書

十、申請書ハ昭和十一年六月一日ヨリ昭和十二年二月末日迄ニ之ヲ提出スベキコト但シ同一代船船主ハ昭和十一年八月末日迄及同年九月一日以降ノ各期間內ニ於テ各一隻ヲ超ユル代船ニ付申請書ヲ提出スルヲ得ザルコト

十一、助成金支給ノ方法ハ左ノ各號ニ依ルコト

（イ）助成金ハ代船ノ龍骨据附ノ時ニ其ノ二分ノ一以內ヲ支給シ殘餘ハ其ノ竣工ノ時ニ支給スルコト

（ロ）助成金ハ船舶改善協會ヲ經テ之ヲ支給スルコト

十二、解體船ガ解體著手前ニ沈沒若ハ滅失シ又ハ重大ナル損傷ノ爲再用困難トナルトキハ當該解體船ニ相當スル他ノ船舶ヲ以テ之ニ代フベキコト

十三、助成金ノ交付ヲ受ケテ建造シタル船舶ハ命令書ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ承認ヲ受クルニアラザレバ之ニ外國人船員ヲ乘組マシムルヲ得ザルコト

十四、助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ解體船ノ解體ノ時期迄通貨又ハ國債ヲ以テ遞信大臣ノ定ムル保證金ヲ遞信省ニ差出スベキコト

十五、命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ解體船ノ解體ノ時期迄通貨又ハ國債ヲ以テ遞信大臣ノ定ムル保證金ヲ遞信省ニ差出スベキコト

十六、命令書ノ規定ニ違背シタルトキハ契約ヲ解除シ、助成金ノ支給ヲ廢止シ、既ニ支給シタル助成金ヲ還納セシメ又ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ相當ノ違約金ヲ徵收スルコトアルベキコト

十七、本告示ニ於テ速力トハ正常最大馬力ニ對スル速力ニシテ第六項ニ號ノ試驗ニ依リ測定シタルモノヲ謂ヒ船ノ長サトハ船舶滿載吃水線規程第四條ニ規定スルモノヲ謂フコト

第一號書式

代船件名書

一、船種

二、製造番號

三、計畫總噸數

四、機關ノ種類及數

五、計畫馬力

六、計畫速力

七、工場ノ位置及名稱

八、起工豫定年月日

九、竣工豫定年月日

十、製造價格

十一、就航豫定航路

年　月　日

住所

氏　名　印

備考　二ハ未確定ノ場合ニハ其ノ旨ヲ記載シ七乃至十ハ未確定ノ場合ニハ其ノ見込ヲ記載スルコト

第二號書式

解體船件名書

一、船舶番號

二、船種船名

三、船舶ノ用途

四、船籍港

五、所有者

六、總噸數

七、航海速力

八、進水年月

九、解體セントスル場所

十、解體セントスル者ノ住所氏名

十一、解體著手豫定年月日

十二、解體完了豫定年月日

年　月　日

住所

氏　名　印

備考　九乃至十二ハ未確定ノ場合ニハ其ノ見込ヲ記載スルコト

別表

連力（節ニテ）船ノ長サノ（米ニテ）平方根ト ノ比	代船ノ竣工總噸數一噸ニ對スル助成金額
一、三〇以上	二四・五圓
一、三五〃	二五・五〃
一、四〇〃	二六・五〃
一、四五〃	二七・五〃
一、五〇〃	二八・五〃
一、五五〃	二九・五〃
一、六〇〃	三〇・五〃
一、六五〃	三一・五〃
一、七〇〃	三二・五〃

備考

一、解體船ノ總噸數ガ代船ノ竣工總噸數、若シ竣工總噸數ガ計畫總噸數ヲ超ユルトキハ計畫總噸數ヨリ小ナル場合ニ於テハ其ノ差額ニ對シ一噸ニ付金拾圓ノ割合ヲ以テ算定シタル金額ヲ助成金總額ヨリ減額ス

二、助成金ハ代船ノ竣工總噸數ガ計畫總噸數ヲ超過スルトキ又ハ其ノ速力ガ計畫速力

ヲ超過スルトキハ其ノ超過噸數又ハ速力ニ付テハ之ヲ支給セズ

三、助成金ハ一噸未滿ノ端數ニ付テハ之ヲ支給セズ

◎遞信省告示第千二百二號

昭和十一年六月一日ヨリ左記三等郵便局ヲ設置ス但シ郵便物集配事務ヲ取扱ハズ

昭和十一年五月二十九日

遞信大臣　頼母木桂吉

名稱　位置

佐賀城內郵便局（サガジョウナイ）　佐賀市赤松町賀城內（佐賀局集配區內）

新栖子郵便局（シンスコ）　愛知縣知多郡旭村（尾張大野局集配區內）

◎鐵道省告示第百五十六號

昭和三年十二月鐵道省告示第三百六號歐亞聯絡旅客ニ對スル寢臺券發賣規則中左ノ通改正シ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年五月二十九日

鐵道大臣　前田　米藏

第五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

個人往復旅客（ソヴイエト鐵道發著ノ場合ヲ除ク）ノ往路及復路ニ對シテハ前項ノ寢臺料金ヨリ一割ヲ低減ス

團體旅客ニ對シテハ第一項ノ寢臺料金ヨリ左ノ率ノ割引ヲ爲ス

十人以上　二割五分

二十五人以上　三割

五十人以上　四割

百人以上　五割

前二項ノ場合ニ於テ〇・〇一佛フラン未滿ノ端數ハ〇・〇一佛フランニ切上クルモノトス

◎鐵道省告示第百五十七號

昭和五年三月鐵道省告示第六十八號連帶運輸ヲ爲ス鐵道、軌道及自動車並連帶運輸ノ範圍第一條別表中左ノ通改正シ昭和十一年六月五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年五月二十九日

鐵道大臣　前田　米藏

同古里村大字稻澤	天柴	七五六イ號	見込	一〇一〇
同	車屋敷	七五六イ號	見込	二〇一七ノ內
同大字川井	尾崎	一三五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三六	見込	山宮紋三郎
同	同	一三七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三八	見込	福田　八郎
同	同	一三九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同大字小丹波	南平	九〇	八、四〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九一	見込	芦野　萬古
同	同	九二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同大字大丹波	堀口	七五〇ノ二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同大字小丹波	滝ノ平	五五四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五五五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同大字白丸	梨ノ木澤	四二九	見込	清水常右エ門
同	同	四二六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同大字丸ノ內	峰	二九九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	畑	二九八	見込	原島　陶藏
同	同	二九七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	六	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	五	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	四	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	三	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	二	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	一	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	〇	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九九	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九八	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同	同	九七	一、七〇〇ノ內	一〇〇
同

同	三九九イ號	同	二八ノ內	小林岩次郎	
同	三九六ノ內	同	三三ノ內	東光院	
同	三九〇	同	一一〇〇ノ內	田中一良	
同	三九四	同	一一〇〇ノ內	野口正雄	
同	三九〇ノロ	同	一一〇〇ノ內	東一喜	
同	三八九ノイ	同	三六	東藤作	
同	三八五	見込	一一〇〇ノ內	同	
同	三八八	同	一一〇〇ノ內	谷ノ入組	
同	三八六	同	一一〇〇ノ內	東閑藏	
同	三八二	同	一一〇〇ノ內	野口國藏	
同	三八三イ號	同	一一〇〇ノ內	大智寺	
同	三八一ノ二	同	一一〇〇ノ內	同	
同	三八三	同	一一〇〇ノ內	平井村字中野組	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	木住野留之助	
同	三七九	見込	一一〇〇ノ內	石井伊助	
同	三八一	同	一一〇〇ノ內	東藤作	
同	三八二	同	一一〇〇ノ內	宮崎吉五郎	
同	三八四	同	一一〇〇ノ內	田中忠八外八名	
同	四〇三イ號	同	一一〇〇ノ內	野口正雄	
同	四〇三	同	一一〇〇ノ內	羽生順吉	
同	三七九	見込	一一〇〇ノ內	內山安兵衛	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	市川喜三郎	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	小林太市郎	
同	三七九イ號ノ二	同	一一〇〇ノ內	原島順吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	平塚傳吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	原島順吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	谷合孫一	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	大谷政吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	高橋太次郎	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	谷合友吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	原島順吉	
同	三八〇	見込	一一〇〇ノ內	谷合孫一	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	寶藏寺	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	谷合五兵衛	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	土屋要藏	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	木住野晉四郎	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	原島順吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	小澤	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	石井伊助	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	谷合孫一	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	土屋繁之丞	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	土屋要藏	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	萩原平八	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	黑山文太郎	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	市川藤次郎	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	長田省三	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	黑山儀兵衛	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	原島順吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	土屋宏子	他
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	清水浦吉	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	小机三造	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	峰岸信明	
同	三八〇	同	一一〇〇ノ內	同

熊本醫科大學教授　萩原　義雄
歐洲各國ヘ出張ヲ命ス
公立實業學校教諭　櫛田　勇
滿洲國ヘ出張ヲ命ス（以上十箇同）
北海道帝國大學教授　大熊　桑治
本俸七級俸下賜
醫學部勤務ヲ命ス
精神病學講座擔任ヲ命ス
高岡高等商業學校教授　竹澤啓一郎
十一級俸下賜
公立高等女學校教諭　川口　武文
栃木縣立宇都宮第一高等女學校教諭ニ補ス
公立實業學校長　成瀬　藤一
靜岡縣須之內高等家政女學校長ニ補ス
公立實業學校教諭　菅原　信
北海道野付牛高等家政女學校教諭ニ補ス
同　石原　千平
靜岡縣立田方農學校教諭ニ補ス
公立實業學校教諭兼　中村　主計
公立實業學校舍監ニ補ス
島根縣立松江農林學校教諭兼島根縣立松江農林學校舍監ニ補ス
公立實業學校教諭　三好　清
公立實業學校教諭ニ補ス
島根縣立安來實業學校教諭ニ補ス
同　佐々木俊一
島根縣立大田農學校教諭ニ補ス
同　井上　喬策
島根縣濱田町立實踐女學校教諭ニ補ス
同　增田　竹重
德島縣立商業學校教諭ニ補ス
同　挹田　廣貞
愛媛縣立宇和農業學校教諭ニ補ス
滋賀縣立青年學校教員養成所教諭ニ補ス
山本　五男
同
岩手縣立青年學校教員養成所教諭ニ補ス
公立中學校長　本重　旦二
（各通）　熊本縣公立小學校長　田中　政男
滿洲國ヘ出張ヲ命ス
公立實業學校長　原田悅太郎
（各通）　公立高等女學校教諭　今井　晉治
兵庫縣公立小學校長　林　英夫
令月附（八月二十三日）ヲ（八月十七日）ノ報告誤
福岡縣書記官
中華民國ヘ出張ヲ命ス（以上十箇同）
農林技師　十川　正夫
アラスカヘ出張ヲ命ス（十箇農林省）
鐵道技師　堀越　一三
五級俸下賜
工務局勤務ヲ命ス
鐵道局技師　榎本　萬里
東京鐵道局宇都宮保線事務所長ヲ命ス（以上十箇鐵道省）
檢查官　水島　房吉
（各通）　副檢查官　松田　醇二
遞信省及東京遞信局會計實地檢查トシテ出張ヲ命ス（十箇會計檢查院）
公立實業學校教諭　帶金　武雄
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十一年四月九日ヨリ年功加俸年額金百四拾四圓下賜
公立中學校教諭　坂本　進
公立實業學校教諭　三好　清
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十一年四月十日ヨリ年功加俸年額金百五拾貳圓下賜
公立高等女學校長　大瀧　正寬
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十一年四月二十九日ヨリ年功加俸年額金九拾六圓下賜（以上十箇茨城縣）
公立實業學校教諭　柿崎作次郎
八級俸　當分千四百下賜
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十一年五月六日ヨリ年功加俸年額百四拾四圓下賜（十箇青森縣）
公立中學校教諭　明本　常丸
八級俸　當分千四百五拾圓
公立學校職員年功加俸令ニ依リ昭和十一年五月十二日ヨリ年功加俸年額百四拾四圓下賜（十箇同）
公立實業學校長　尾藤　信正
手當年額百八拾圓下賜（十箇同）

宮廷錄事

◎謁見　米國亞細亞艦隊司令長官海軍大將オリン、グルド、マーフィン今般來航ニ付敬意ヲ表スルタメ同艦隊參謀長海軍大佐ダブリュー、エイチ、ウッドソン外一名ヲ從ヘ本邦駐箚同國特命全權大使　ジョゼフ、クラーク、グルー同伴同大使館附海軍武官海軍大佐フレッド、エフ、ロッヂャースト共ニ昨二十八日午前十時十五分　天皇陛下ニ謁見許テ同大將ハ夫人同伴前記諸員ト共ニ　皇后陛下ニ謁見仰付ケラレタリ
本邦駐箚諸國特命全權公使（フィン、コーレン信任狀竝前任公使ノ解任狀捧呈ノタメ昨二十八日參內ニ付官ト同乘帝國ホテルヲ出テ參內御車寄階上ニ式部官ノ出迎ヲ受ケ控所ニ入リ午前十一時式部長官ノ誘導ニ依リ鳳凰ノ間ニ進ミ　天皇陛下ニ謁見信任狀竝前任公使ノ解任狀ヲ捧呈シ訖テ夫人同伴桐ノ間ニ於テ　皇后陛下ニ謁見仰付ケラレタリ
◎拜謁竝賜饗所參拜　今般チリ國ヘ赴任ノ特命全權公使三宅哲一郎ハ昨二十八日午前十時　天皇陛下ニ拜謁引續キ　皇后陛下ニ拜謁畢テ　賢所參拜仰付ケラレタリ
今般外國航海ノ途ニ上ルヘキ練習艦隊乘員海軍中佐大林末雄外三十八名ハ同日午前十時　天皇陛下ニ拜謁畢テ同中佐外百五十九名ハ　賢所參拜仰付ケラレタリ
◎勅使差遣　故學習院評議會會員伯爵柳澤保惠葬送ニ付昨二十八日午前十時勅使トシテ侍從小倉庫次ヲ其邸ニ差遣サレ幣帛ヲ下賜セラレタリ

彙報

○官廳事項

◎臺北駐在蘭國名譽領事免職　瀋北駐在和蘭國名譽領事ヴェー、イエー、ヴァンデル、スタールハ本年三月十六日附同國勅令第三九號ヲ以テ其職ヲ免セラレタル旨竝ニ新ニ同地駐在同國名譽領事ノ任命ヲ見ルニ至ルマテハディー、ライソンスヲ於テ引續キ事務代理トシテ　同領事館館務ヲ處理スヘキ旨本邦駐箚同國公使ヨリ　本月十八日附書翰ヲ以テ通知アリタリ
◎轉任　宮城縣公立小學校長齋藤富ハ去月二十三日宮城縣女子師範學校訓導ニ轉任セリ
◎退職　天津第一日本尋常高等小學校長伊與田幾次ハ去月二十五日　願ニ依リ退職ヲ命セラレタリ
◎官吏卒去及死去　東京帝國大學助教授　正五位松村瞭ハ本月二十一日卒去シ海軍航空特務少尉正八位勳七等知足ハ同二十四日死去セリ
◎敍職卒去及死去　公立實業專門學校敎授從五位勳六等杉浦舜ハ本月九日卒去シ山口縣公立小學校長正八位林逸人ハ同二十一日死去セリ

○判決

◎再審判決　谷藤耕三ニ對スル失火被告事件ニ付昨十年三月五日橫手區裁判所カ爲シタル有罪ノ確定裁判ニ對シ檢事ヨリ再審ノ請求アリタルニ處本月十一日同裁判所ニ於テ左ノ通無罪ノ判決アリタリ（司法省）

判決

本籍竝住居　秋田縣平鹿郡山內村土淵字土淵七十七番地　農業　谷藤　耕三　明治四十三年九月十日生

右被告人ニ對シ當裁判所カ失火罪トシテ昭和十年三月五日略式命令ヲ以テ罰金二十圓ニ處シ該裁判ハ同月十五日確定シタル處檢事ヨリ再審ヲ申立テ當裁判所ハ之ヲ理由アリト認メ再審開始ノ決定ヲ爲シタルニ依リ檢事小保方佐市關與ノ上再審ヲ爲シ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人谷藤耕三ハ無罪

理由

本件公訴事實ハ被告人ハ　昭和十年一月二十七日午後十時頃肩書被告人居宅前便所ニ點燈シタル籠提灯ヲ携ヘテ赴キ該提灯ヲ便所入口壁雪國ニ接著シテ置キタルカ同便所ヲ立去ルニ當リ不注意ニモ之ヲ其儘放置シタル爲提灯ノ火燃テ雪國ニ燃移リ同日午後十時過頃兄谷藤長藏所有ノ右便所一棟ノ外ニ住家一棟ノ燒燬シタリト謂フニ在リテ被告人谷藤耕三ハ司法警察官並ニ檢事ノ取調ニ對シ其旨自白シタル爲被告人ニ於テ右犯罪ヲ爲シタルモノト認メラレ當裁判所ニ於テ略式命令ヲ以テ罰金二十圓ニ處セラレ該裁判確定シタルコトハ本件記錄及再審請求趣旨書添付ノ同人ニ對スル略式命令ノ謄本ニ依リ明白ナルモ右火災ハ被告人ノ失火ニ因リ發火シタルニ非スシテ秋田縣平鹿郡山內村土淵字土淵十番地居住照井儀助（明治三十五年生）ノ放火ニ基クモノナリシコトハ本件添付ノ同人ニ對スル放火被告事件ノ記錄ニ徵シ之ヲ認メ得ヘク本件被告人ノ所爲ニ爲シタル自白ハ虛偽ナルコト明白ニシテ本件ハ即チ犯罪ノ證明ナキモノト云ハサルヘカラス然レハ當裁判所カ被告人ニ被告人ニ彼上ノ犯罪アリトシテ有罪ノ斷定ヲ爲シタルハ失當ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ヲ適用シ被告人ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十一年五月十一日

横手區裁判所

判事　戶村　軍際

○陸海軍

◎練習生卒業　橫須賀海軍病院ニ於テ本月二十一日左記練習生ニ各其教程卒業ヲ申渡セリ其官職氏名左ノ如シ（海軍省）

第三十三期高等科看護術練習生

海軍二等看護兵曹　石崎　定雄　同　富田虎次郎
海軍三等看護兵曹　前田　秋茂　同　內藤　初雄
同　濱島　操　同　田島　人志
同　丹波孝太郎　同　井上　東吉
同　小林　和三　海軍一等看護兵　澁谷　賢
同　田中　正元　同　岡部　善德

同　針生榮四郎　同　青木　享祐
同　佐々木信夫
第四十五期普通科看護術練習生
海軍一等看護兵　山崎　乙吉　同　杉山　詮
同　新海　正治　同　川村　武夫
同　丸岡　義男　同　松井　義雄
海軍二等看護兵　最上　九一　同　伊藤柳太郎
同　吉澤健三郎　同　茂木　茂雄
同　井上　朔二　同　和崎　正信
同　星野　寅吉　同　三部　利藏
同　木村　重忠　同　遠藤二三男
同　井川伊三郎　同　笹田　文顯
同　萩野　光孝　同　金澤　源

○學事

◎學位授與　京都帝國大學ニ於テ本月十九日附石川縣羽咋郡二伊二十一日附菁森縣工藤治助、福島縣小林正ニ醫學博士ノ學位ヲ、北海道帝國大學ニ於テ同二十二日附北海道太田滿之岩手縣伊藤昌一ニ醫學博士ノ學位ヲ授與セリ（文部省）
◎講師嘱託　京都帝國大學ニ於テ本月十八日附長谷川幸三ニ昭和十一年度農學部講師、同二十日附東京帝國大學助教授　宇野圓空ニ昭和十一年度文學部講師ヲ嘱セリ（文部省）
◎學士試驗合格者　京都帝國大學ニ於テ本月九日附工學部電氣工學科片山光照ニ學士試驗合格證書ヲ授與セリ（文部省）
◎入學許可竝取消等　第五及松江兩高等學校ニ於テ孰モ曩ニ入學ヲ許可セル者ノ內其許可ヲ取消シタル者及補缺入學ヲ許可セル者等ノ氏名左ノ如シ（文部省）
◎第五高等學校
入學許可取消

文科甲類	大塚　榮一	文科甲類	中村　謙夫
理科甲類（三科）	康夫	理科乙類（下津）	秀美
理科乙類	菊池　康太	補缺入學許可	
文科甲類	秋山　博正	理科甲類（岡崎）	坂本基三郎
理科甲類	伊藤　憲一	治定	薦吉　恒利
理科乙類	福島　又男		

◎松江高等學校
入學許可取消

理科乙類	若槻　英敏		
補缺入學許可			
理科甲類	岩田　和夫		
轉類許可			
理科甲類ヨリ同乙類ヘ	大島好四郎		

○宗教

◎淨土宗西山禪林寺派宗制中等改正　淨土宗西山禪林寺派宗制中竝ニ宗規僧籍竝ニ僧籍編入規則、同法脈系統傳承規則、同教師補任規則、同教師檢定試驗規則、同看衣許可規則、同住職任免規則、同學校規則、同學校規則及同議會規則中改正ノ件昨二十八日認可セリ（文部省）
◎時宗管長事務取扱就職　時宗管長桑垣諦善死亡ニ付是微定管長事務取扱就職ノ件昨二十八日認可セリ（文部省）

○逓遞

◎鐵道一部營業廢止　本月二十六日高島順作ニ對シ元光明電氣鐵道田川二俣町間鐵道運輸營業廢止ヲ許可セリ（鐵道省）

○衛生

◎國際傳染病報告　本件ニ關シ本月二十二日在新嘉坡保健部衞生局ヨリ西貢無線電信局ヲ經テ左ノ通情報アリタリ（本報第二十二日（內務省）

自五月八日至同十五日國際傳染病狀況

本表中死者ハ自四月十九日至同二十五日一週間ニ於ケル文書報告ニ依リ示ス

	「ペスト」			「コレラ」			痘瘡		
港及都市	患者（一月累計）	死者（同上累計）		患者（同上累計）	死者（同上累計）		患者（同上累計）	死者（同上累計）	
上海	一	一	一	一	一	一	一〇	一四五	一六
盤谷	一	一	九	五二	四	二九	一	一	一
バセイン	二	二	一四	三	一	一	一	一	一
モールメーン	一	一	一六	一	一	一	一	一	一
カルカッタ	一	一	二六、二三九	七一	五四九	一〇〇	四、七四	二一四	二、九八〇
チッタゴン	一	一	一五	一	一	三	一	一	一
マドラス	一	一	八二	三〇	一	一〇	一	一	一
孟買	一	一	一	一	一	一	四〇	一、〇四六	三九
カラチ	一	一	三	一	一	三	一四七	三	四一

（摘要）　有菌鼠發見　コロンボ市街ニ於テ有菌鼠一發見セリ
五月十七日セイロン島中部地方ハットンニ於テ「ペスト」患者三發生セリ

帝國議會

○貴族院

◎議員薨去及弔辭　貴族院議員伯爵柳澤保惠本月二十五日薨去ニ付一昨二十七日左ノ弔辭ヲ贈レリ

上海
盤谷
バセイン
モールメーン
カルカッタ
チッタゴン
マドラス
孟買
カラチ

◎議員惠本基三郎伯爵柳澤保惠君ノ長逝ヲ追悼シ恭シク弔辭ヲ呈ス

昭和二十一年五月二十九日　金曜日
官報　2820　号外
本木

地方行政

◎府縣會議員會選

○東京府告示第三百十四號

衆議院議員總選擧ニ際シ投票ノ補充ヲ爲メ別紙ノ通リ投票ヲ行フヘシ

昭和十一年五月二十日

東京府知事　川崎卓吉

別紙

投票ヲ行フ區	投票ヲ行フ場所	投票ヲ行フ時間
東京市麻布區	麻布區役所	午前七時ヨリ午後六時マデ
東京市赤坂區	赤坂區役所	同
東京市四谷區	四谷區役所	同
東京市牛込區	牛込區役所	同
東京市小石川區	小石川區役所	同
東京市本郷區	本郷區役所	同
東京市下谷區	下谷區役所	同
東京市淺草區	淺草區役所	同
東京市本所區	本所區役所	同
東京市深川區	深川區役所	同
東京市芝區	芝區役所	同
東京市麻布區	麻布區役所	同
東京市赤坂區	赤坂區役所	同
東京市四谷區	四谷區役所	同
東京市牛込區	牛込區役所	同
東京市小石川區	小石川區役所	同
東京市本郷區	本郷區役所	同
東京市下谷區	下谷區役所	同
東京市淺草區	淺草區役所	同
東京市本所區	本所區役所	同
東京市深川區	深川區役所	同

在外公館報告

◎領事館設置

○外務省告示第二十七號

昭和十一年五月二十日在桑港帝國領事館ヲ廢止シ同日ヨリ在桑港帝國領事館ヲ設置シタリ

（外務省令）

觀象

◎全國氣象表（正午觀測）

（備考）氣溫ノ部ニ印ハ氷點下ノ度ヲ示シ降水量ノ部ニ印ハ雪ヲ示ス　雨量ハ午前六時ヨリ翌日午前六時マデノ總量ナリ

出月日十六日

地名	氣壓(粍)	風向	風速(米)	氣溫(攝氏)	天氣	降水量(粍)
稚内	761.0	東	7	23.8	曇	—
札幌	758.9	南南西	6	26.6	曇	5
鹿兒島	760.5	靜穩	1	19.4	曇	35
高知	761.8	靜穩	1	17.2	雨	20
大分	761.9	東	2	15.0	雨	25
多度津	761.7	北北東	3	15.2	雨	14
廣島	762.2	靜穩	1	14.4	雨	14
大阪	761.7	北北東	2	19.2	雨	6
長崎	761.9	靜穩	1	15.5	雨	16
鳳凰	762.0	靜穩	1	16.1	雨	16
宮崎	761.7	靜穩	1	16.0	雨	4
名古屋	763.2	南南西	2	16.9	雨	16
靜岡	763.6	靜穩	1	15.6	曇	—
東京	763.8	靜穩	0	16.0	曇	—
銚子	763.4	東	2	16.3	曇	—
長岡	760.8	靜穩	1	18.8	雨	5
酒田	764.1	靜穩	1	12.4	雨	—
宇都宮	763.7	靜穩	1	12.2	雨	1
福島	763.5	北東	2	12.4	雨	—
仙台	761.5	南南西	2	19.2	雨	24
新潟	761.6	西南西	3	17.0	雨	12
寺泊	761.5	南東	3	16.1	雨	12
石巻	763.4	南	2	10.0	雨	1
輪島	762.8	南	5	11.4	曇	6
金澤	761.2	靜穩	1	10.8	曇	5
富山	761.3	南東	4	9.1	曇	4
名古屋	761.2	南東	6	9.8	曇	7
舞鶴	759.6	北北西	2	16.5	曇	7
境	763.6	南西	4	6.5	曇	—
大田	760.8	南	5	9.0	曇	—
松江	761.0	南西	3	16.4	曇	—
浜田	760.7	南	8	16.2	曇	—
下關	756.8	南南西	7	21.8	雷雨	—
宮崎	755.8	南東	5	12.8	雷雨	—
新潟	757.2	南南西	4	15.8	曇	—
秋田	757.0	西南西	7	21.0	雷雨	—
青森	754.4	西南西	4	19.8	雷雨	—
函館	751.8	西	4	19.8	雷雨	—
小樽	759.1	南南東	5	17.8	曇	—
網走	764.0	西北西	2	18.3	曇	—

◎氣壓氣象

五月二十五日午前九時

天氣概況

雨

降水量ノ最多キ地方　雨量　降水時間

南南西

土地收用公告

◎土地收用法第二十六條ノ規定ニ依リ土地ヲ收用ス

昭和十一年五月二十九日

内務大臣　潮　恒

官報　2820　号外

㊀廣島穀物雑穀貨物商業組合變更
理事原宮三ハ昭和十一年二月一日辭任シ左記ノ者同年三月十七日理事ニ就任ス
小田政次郎　廣島市翠町六番地
立石　吾一　同市天神町四十六番地
清水　又吉　同市天神町二丁目十二番地ノ二
龜井　正人　同市中島本町九番地
監事小田政次郎ハ昭和十一年二月一日辭任シ左記ノ者同年三月十七日廣島市元柳町六番地ノ一
原　延佳　同市胡町七番地
昭和十年三月十三日登記
ヲ左ノ如ク變更ス
出資口數及拂込出資總額
出資口數　二百三十五口
拂込出資總額　金三千九十五圓七十五錢
右昭和十一年三月二十三日登記　廣島區裁判所

㊁岡山製氷卸賣商業組合(變更)
昭和十一年三月二十日理事監事ノ補缺選擧ヲ行ヒタルニ左ノ者當選同日就任シタリ
理事　柳井善太郎　岡山市野田屋町百十五番地
同　堀　正吉　岡山市内山下六十五番地
同　藤野　忠治　岡山市錦屋町二十八番地
同　杉山　男登　岡山市下石井二百十三番地
監事　淵脇　保一　岡山市厳井九十五番地
同　小幡　卓市　岡山市野田屋町百六十六番地
同　酒井　高一　岡山市上石井四百六番地
右昭和十一年三月三十日登記　岡山區裁判所

㊂青森洋服商業組合變更
理事中島信一ヲ中德太郎丹代市太郎ヲ久慈鬼一宮屋辰雄ハ昭和十一年三月二十日辭任ス
同日左ノ者理事ニ就任ス
中島　信一　青森市大字米町百十五番地
田中德太郎　同市大字新町九十一番地
丹代太市郎　同市大字柳町五十二番地
角田　恒一　同市大字浦町字橋本百十五番地
中鉢　俊光　同市大字寺町七十四番地
岡　秀雄　同市大字安方町五十六番地
監事ニ就任ス
菅野俵平太立吉三郎ハ退任シ藤島蔵治村田義男ヲ重任シ同日左ノ者監事ニ就任ス
能登谷市五郎　青森市大字蛯貝町百二十六番地
三浦藏治　同市大字寺町四十二番地
右昭和十一年四月二日登記　青森區裁判所

㊃商業組合設立
名稱　樣似商業組合
事務所　樣似郡樣似村大字樣似村一番地
目的　地區內ニ於ケル商業ノ改善發達ヲ圖ルタメ共同ノ施設ヲ爲スコト
地區　樣似郡樣似村大字樣似村一圓
設立認可年月日　昭和十年十一月二十六日
出資口數　二百五十口
出資總口數　二百五十口也
拂込出資總額　金二千二百五十圓也
出資口數及拂込出資總額
一出資口ノ金額　金二十圓也
一出資ノ拂込ノ方法　第一回ノ拂込ハ一口ニ付金五圓トシ第二回以後ノ拂込ハ總會又ハ理事ノ決議ニ依リ拂込ムモノトス
理事ノ氏名住所　樣似郡樣似村大字樣似三十四番地
高尾左太悦
南　伊之松　同郡同村大字同村無號地
藤原　重　同郡同村大字同村無號地
三上恒三郎　同郡同村大字同村三十七番地
笹島　連藏　同郡同村大字同村二百七十五番地
一監事ノ氏名住所
吉田　勇吉　樣似郡樣似村大字樣似村無號地
工藤三太郎　同郡同村大字同村無號地
南　錬造　同郡同村大字同村無號地
一各組合員ノ氏名住所及保證金額
金六百圓　高尾左太悦　樣似郡樣似村大字樣似村
金二百二十圓　藤原重　同郡同村大字同村無號地
金二百四十圓　三上恒三郎　同郡同村大字同村無號地
金二百二十圓　南伊之松　同郡同村大字同村無號地
金二百二十圓　寺林幸作　同郡同村大字同村無號地
金二百二十圓　笹島連藏　同郡同村大字同村無號地
金二百七十五圓　吉田勇吉　同郡同村大字同村無號地
金一百二十圓　原田健一　同郡同村大字同村無號地
金六十圓　木田正春　同郡同村大字同村無號地
金六十圓　渡邊貞次郎　同郡同村大字同村十九番地ノ三
金六十圓　奈良藤次郎　同郡同村大字同村無號地
金二十圓　深山常治　同郡同村大字同村無號地
金四十圓　小林長助　同郡同村大字同村無號地
金二十圓　西村重夫　同郡同村大字同村無號地
金二百二十圓　田中省三　同郡同村大字同村無號地
金二百圓　菊地農七　同郡同村大字同村七十五番地
右昭和十一年三月三十日登記　浦河區裁判所樣似出張所

㊄相互保險會社登記
富國徴兵保險相互會社變更
一取締役左ノ者ハ昭和十一年二月二十七日重任ス
根津嘉一郎　東京市赤坂區青山南町六丁目百十五番地
伊豆十二郎　同市品川區西品川三丁目八百四凡夫
吉田　襲輝　同市芝區三田一丁目四十三番地
稻畑勝太郎　大阪市南區順慶町二丁目五十一番地
原二十五郎　名古屋市東區鍛屋上野町字南山非駒三千二百七十六番地ノ六十六
一監査役左ノ者ハ同日重任ス
增田義一　東京市小石川區原町百二十五番地
上郎清助　同市本郷區南六丁目町東鳥越二千百三十三番地
右昭和十一年三月九日登記
㊅昭和生命保險相互會社變更
左ノ者昭和十一年二月二十九日取締役ニ就任ス
賀來興次郎　東京市芝區原町中延町千七十九番地
實吉　純郎　東京市麻布區東鳥居坂町九番地
取締役左ノ者ハ同年三月二日重任ス
武永和三郎　東京市澁谷區櫻丘町二番地
仲宗根玄悦　同市小石川區關口臺町二十九番地
監査役左ノ者ハ同日重任ス
前田吉治　東京市京橋區京橋一丁目十番地四
監査役左ノ者ハ同年三月十一日重任ス
中山　智修　東京市澁谷區松木一丁目百十九番地
大塚健治　同市豊島區目白三丁目三千五百七番地
右昭和十一年三月十三日登記
㊆千代田生命保險相互會社變更
取締役堀井理之助ハ昭和十一年三月十八日其住所ヲ東京市麻布區三軒家町三十六番地ニ移轉ス
右昭和十一年三月二十三日登記

㊇第一生命保險相互會社更正
一監査役小林一三ハ住所ヲ大阪府豊能郡池田町千九百六十七番地ト更正ス
右昭和十一年三月二十五日登記　東京區裁判所

㊈家畜保險組合登記

㊈山口縣家畜保險組合變更
一理事上田小郎ハ昭和十一年三月二十六日辭任ス
右昭和十一年四月二日登記　山口區裁判所

㊉工業組合登記

㊉東京西洋家具工業組合變更
一監事左ノ者ハ昭和十一年二月二十八日重任ス
彦坂　治作　東京市芝區新濱六丁目八十番地
立原仙三郎　同市同區潮松町二丁目二十九番地
武槻　由藏　同市同區宮本町二十三番地
右昭和十一年三月三日登記
㊉帝都製氷工業組合變更
一理事飯島子郎水野憲輿田亮太郎ハ昭和十一年二月二十一日辭任ス
右昭和十一年三月四日登記
㊉東京染晒工業組合變更
一監事瀧澤直治山中松右衛門ハ昭和十年十一月十七日退任シ左ノ者同十一年三月四日監事ニ就任ス
瀧澤直治　東京市小石川區關口水道町四十四番地
田中松右衛門　同市芝區白金猿町二丁目三十四番地
小室米道　同市葛飾區上木根川町二百九十番地
右昭和十一年三月五日登記
㊉東京紙製本工業組合解散及清算人選任
一總會ノ決議ニヨリ昭和十一年一月三十一日解散
一清算人ノ氏名住所　内島安次郎　東京市下谷區竹町二十番地
右昭和十一年三月九日登記
㊉大日本人造バター工業組合變更
一監事宇都宮幸作ハ昭和十一年三月一日其住所ヲ大阪市淀川區大仁本町一丁目八十番地ニ移轉ス
右昭和十一年三月十六日登記
㊉日本人造絹織物工業組合聯合會變更
一銀座西五丁目二番地ノ一共同建物ビル内ニ移轉ス
右昭和十一年三月十七日登記

㊊家畜保險組合登記

㊊福井縣出羽二重工業組合變更
昭和十年四月一日ヨリ昭和十一年三月三十一日迄ニ於テ拂込濟出資金ヲ左ノ通リ變更ス
拂込濟出資金　金一千百二十一圓九十六錢
右昭和十一年四月二日登記　福井區裁判所
㊊日本炭酸カルシウム搗粉工業組合變更
昭和十一年三月二十三日地區ヲ左ノ如ク變更ス
廣島縣呉市縣福岡縣山縣香川縣愛媛縣
理事渡邊太郎飯田忠三郎監事渡邊千代吉一瀬彌太郎ハ昭和十一年三月二十七日辭任ス
右昭和十一年三月二十七日登記　廣島區裁判所
㊋佐賀縣清涼飲料水工業組合變更
一監事古田森竹蟹村常太郎平島進ハ昭和十一年三月十九日重任ス
昭和十一年四月一日登記　佐賀區裁判所

㊋海外移住組合登記

㊋山口縣海外移住組合變更
一昭和十一年三月二十四日左記ノ者理事ニ就任ス
南　清左衛門　熊毛郡勝山村大字楠野手三十五番地
右昭和十一年三月二十八日登記　山口區裁判所

㊌牧野組合登記

㊌玉澤村八澤牧野組合變更
理事大場稻五郎佐藤勝三郎ハ昭和十一年三月十五日重任シ左ノ者同日新任ス
特野哲郎　千葉市大葉
同村大字八澤字八澤岩澤千二十八番地
右昭和十一年四月四日登記　古川區裁判所築館出張所

㊍産業組合登記

㊍産業組合中央金庫變更
一昭和十一年一月三十日乙第四十七回產業債券ニ付一部償還シ其殘額ヲ左ノ如ク變更ス
殘額ヲ左ノ如ク變更ス
乙第四十回金四十三万圓
乙第四十一回金百二十五万圓
乙第四十二回金十万圓
乙第四十三回金十二万八千圓
乙第四十四回金七万圓
乙第四十五回金八万八千圓
一乙第四十七回產業債券ニ付一部償還シ其殘額ヲ左ノ如ク變更ス
乙第四十回金四十三万圓
乙第四十一回金百二十五万圓
乙第四十二回金十万圓
乙第四十三回金十二万八千圓
乙第四十四回金七万圓
乙第四十五回金八万八千圓
一同年二月一日左記產業債券ニ付一部償還シ其殘額ヲ左ノ如ク變更ス
乙第二十八回金三十六万圓
乙第四十三回金四十二万圓
一第四十四回金四百二十八万圓
一第五十回金百二十五万圓
同日第三十四回金十万圓ヲ同日全部償還ス
同年三月一日左記產業債券ニ付一部償還シ其殘額ヲ左ノ如ク變更ス
乙第四十八回金五万八千圓
同年三月一日左記產業債券ニ付一部償還シ其殘額ヲ左ノ如ク變更ス
第二十八回金三十六万圓
第三十一回金三十三万圓
第三十三回金十八万圓
乙第二十四回金十八万圓
乙第二十五回金十九万圓
乙第二十六回金八十五万圓
乙第二十七回金四十五万圓
乙第二十八回金十六万圓
乙第二十九回金十万圓
乙第三十回金十六万圓
乙第三十一回金十二万圓
乙第三十二回金十四万圓
乙第三十三回金十七万圓
乙第五十回金六万七千圓
右昭和十一年三月二十六日登記　東京區裁判所

㊎有限責任千住信用組合變更

㊎有限責任千住信用組合變更
理事竹中森之助ハ昭和十一年二月十日死亡ス
右昭和十一年三月二日登記　東京區裁判所千住出張所

㊏有限責任宮原信用販賣購買利用組合變更
理事大谷嘉一郎沼野房五郎清水泰助川鍋草太郎中里忠一町田角次郎清水隆利ハ昭和十一年三月八日重任ス
一監事大谷嘉平次ハ昭和十一年三月八日退任シ同島村市郎島村直吉岸牛松澤重吉大木信一ハ同日重任シ左記ノ者同日監事ニ就任ス
大谷堅一　北足立郡宮原村大字加茂宮三百七十八番地
田熊代助　同郡同村大字奈良瀬戸一百三十八番地
昭和十一年四月四日登記　浦和區裁判所上尾出張所

㊐保證責任南埼玉信用販賣購買組合變更
理事增田一郎ハ因リ昭和十一年三月十八日左ノ者理事ニ就任ス
梁田角二郎　南埼玉郡太田村大字吉羽千五百二十九番地
右ニ同ジ
昭和十一年四月四日登記　浦和區裁判所久喜出張所

㊀保證責任吉富信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年二月五日任期滿了ニ依リ重任ス
㊀保證責任吉富信用販賣利用組合變更
理事昭和十一年一月三十一日任期滿了ニ依リ重任ス
監事同日任期滿了ニ依リ齋藤光次ハ退任シ國府寺太郎作ハ同日左記ノ者就任ス
川勝多次郎作郡富木村字吉小字永垂六十四番地　竹下現二郎同所字刑部小字川西六番地
右昭和十一年四月二日登記　岡部區裁判所
㊀保證責任檜山村信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年一月二十五日　監事山下信太郎松村彌太郎松村謙太郎ハ各滿期重任
右昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任美信用販賣購買利用組合變更
理事一名缺員ノ處左記ノ者就任
岩山重吉　船井郡園部町字西八田二十四番戸
同日監事澤井龍三郎澤田龍ハ各滿期重任
右昭和十一年三月三十日登記　園部區裁判所
㊀保證責任三日市信用販賣購買利用組合事務所移轉
昭和十一年三月十二日事務所ヲ左ノ地ニ移轉ス
南河內郡三日市大字上田百七十一番地
右昭和十一年三月二十七日登記　堺區裁判所
㊀保證責任神樂信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年三月二十八日認可ニ因リ左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任神樂信用購買販賣利用組合
一目的中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ組合員ニ賣渡又ハ加工セシテ之ヲ販賣シ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產ノ全部又ハ一部ヲ販賣シ組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣却ス
組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ爲ニ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ販賣スル事
一區域中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ爲ニ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ販賣スル事
一區域中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及組合員ト同一ノ家ニ在ル者ノ爲ニ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ販賣スル事
一目的ノ追加　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣却ス
利用セシム
一出資拂込ノ方法　出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金五圓トス　組合員ハ前項ノ金額ヲ超エ任意ニ拂込ムヲ得　第一回後ノ出資拂込ハ配當スヘキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口毎ニ毎年六月末日ニ國庫拂込ムモノトス
一口毎ニ金額ヲ超エ任意ニ拂込ヲ得
右昭和十一年四月一日登記　豐岡區裁判所
㊀保證責任竹野信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月三十日　定款變更認可ニ因リ名稱目的ノ追加ニ關スル左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任竹野信用販賣購買利用組合
一目的ノ追加　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ヲ受入レ又ハ組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡ス事
一區域中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ヲ受入レ又ハ組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡ス事
右昭和十一年四月二日登記　竹野區裁判所
㊀保證責任檜山村信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年二月二十日　理事大槻順太郎ヲ左ノ如ク變更ス
理事　檜山村　大槻順太郎
右昭和十一年三月二十四日登記　豐岡區裁判所
㊀保證責任美信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任竹野信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任三日市信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月十二日　定款變更認可ニ因リ名稱目的ノ追加ニ關スル左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任三日市信用販賣購買利用組合
一目的　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ヲ受入レ又ハ組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡ス事
一區域中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ヲ受入レ又ハ組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產物ヲ買入之ニ加工シ若ハ加工セシテ組合員ニ賣渡ス事
右昭和十一年四月二日登記　堺區裁判所
㊀保證責任神樂信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年三月十八日　定款變更認可ニ因リ左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任神樂信用購買販賣利用組合
一目的中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產ノ全部又ハ一部ヲ販賣スルコト　五組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル利用設備ヲナシ之ヲ組合員ニ利用セシムルコト
右昭和十一年四月一日登記　柏原區裁判所佐治出張所
㊀保證責任竹野信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任檜山村信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任美信用販賣購買利用組合變更
理事一名缺員ノ處左記ノ者就任
岩山重吉　船井郡園部町字西八田二十四番戸
同日監事澤井龍三郎澤田龍ハ各滿期重任
右昭和十一年三月三十日登記　園部區裁判所
㊀保證責任檜山村信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任竹野信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任三日市信用販賣購買利用組合事務所移轉
昭和十一年三月十二日事務所ヲ左ノ地ニ移轉ス
南河內郡三日市大字上田百七十一番地
右昭和十一年三月二十七日登記　堺區裁判所
㊀保證責任神樂信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年三月二十八日認可ニ因リ左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任神樂信用購買販賣利用組合
一目的中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產ノ全部又ハ一部ヲ販賣スルコト　五組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル利用設備ヲナシ之ヲ組合員ニ利用セシムルコト
右昭和十一年四月一日登記　柏原區裁判所佐治出張所
㊀保證責任竹野信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年三月二十四日登記
㊀保證責任檜山村信用販賣購買利用組合變更
昭和十一年二月二十二日　理事及監事左ノ通リ變更ス
理事　檜山村　大槻順太郎　西山定光吉見俊市　池本定治郎澤田兵太郎ハ各滿期重任ス
監事　小林特治西村淳造增山當之助
㊀保證責任吉富信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年二月五日任期滿了ニ依リ重任ス
㊀保證責任神樂信用購買販賣利用組合變更
昭和十一年二月二十八日認可ニ因リ左ノ如ク變更ス
一名稱　保證責任神樂信用購買販賣利用組合
一目的中　三組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル物品ヲ買入之ニ加工シ又ハ加工セシテ之ヲ組合員ニ賣渡又ハ組合員ノ委託ヲ受ケ其生產ノ全部又ハ一部ヲ販賣スルコト　五組合員ノ產業又ハ經濟ニ必要ナル利用設備ヲナシ之ヲ組合員ニ利用セシムルコト
右昭和十一年三月二十八日登記　堺區裁判所

月刊

列國政策彙報

A5判　定價三十錢　送料不要

五月號（第七號）

目次

英國……空軍豫算に關する航空相の覺書
警察署の社會事業
濠洲の變則性
ソ聯邦……ソ聯邦電化の一般方針
漁業問題に對するソ聯邦側の態度
獨逸……獨逸に於ける學制改革論の展望
獨逸の交通統制の機構
自然保護法
合衆國……合衆國の直接稅と間接稅との推移
佛國……新裝の全國經濟審議會
フラン貨の平價切下論
伊太利……對伊經濟制裁の效果
伊太利現下の經濟情勢
國際……世界電氣事業統計

内閣調査局編纂　B5判　定價壹圓八拾錢　送料不要

地方財政改善ニ關スル
内閣審議會中間報告

一、本書ハ「現下ノ國情特ニ國民經濟振興ノ必要ニ鑑ミ中央地方ヲ通ズル財政改善ノ根本方策如何」トノ諮問ニ對スル内閣審議會ノ中間報告ヲ輯錄セルモノニシテ時下國策研究上喫緊ノ資料ナリト信ズ

一、内容

（一）地方財政ノ現況　（二）地方財政ノ改善要綱

前記二綱目ニ依リ我國民經濟ノ振興殊ニ地方農山漁村ノ更生ニ要スル租稅制度及公債政策其他財政ノ調整ニ關スル根本方策ヲ記述セリ

（本書ノ大サハ國定規格A4判）

明治二十五年三月三十一日第三種郵便物認可

申込所
○當局官報課發賣掛
○全國各地官報販賣所
○全國主ナル書店
デ販賣致シマスカラ御申込ミ下サイ

東京市麹町區大手町
發行所　内閣印刷局
（電話丸ノ内三五一―九番　振替東京一九、〇〇〇番）

定價　一ケ月　一部　九十五錢　一圓八十錢（外國郵便ニ各送料共五錢）　一圓八十錢（依ル地域）
廣告料　本公告　八ポイント一行三十錢　九ポイント五錢增
一般廣告　八ポイント一行十四字詰　二十五錢

發行所　東京市麹町區大手町　内閣印刷局　電話丸ノ内三五一番　振替東京一九〇〇〇番　官報課

非売品
2820
50
文外